

ふるさとの祭り2025 in なみえ

「ふるさとの祭り」は、地域の宝である民俗芸能の継承や人々の絆の再生を図るため、2013年より県内各地で開催しており、今年は「道の駅なみえ」が会場となります。県内各地で受け継がれ守られている様々な神楽、踊り、舞などが一挙に披露される、年1回の貴重な機会となっておりますので、是非会場にお越しいただきお楽しみください。



過去の映像はこちら

会場案内

なみえの技・なりわい館

道の駅なみえ

体験コーナー

本会場



水素カーから供給される電源を活用しながら、ふるさとの祭りを開催します。

道の駅なみえは、震災復興の拠点として整備された浪江町の交流施設で、地元特産品の販売や食事が楽しめるほか、水素エネルギー実証の場としても活用されています。

なみえ水素タウンの一拠点として、浪江町に立地する「福島水素エネルギー研究フィールド(FH2R)」にて再エネからつくられた水素を活用。水素カーから供給される電源を活用しながら、ふるさとの祭りを開催します。

会場 道の駅なみえ

浪江町幾世橋知命寺60

アクセス

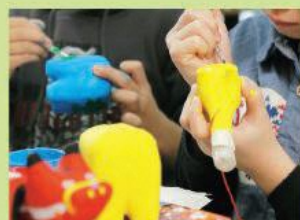
車：常磐自動車道
浪江ICから車で約10分
電車：JR常磐線
浪江駅から徒歩約15分



体験コーナー〈芸能に触れよう！〉

赤べこや起き
上がり小法師の
絵付け体験

1日各25名先着



民俗芸能の体験

25日
11時～11時30分 深野神楽保存会
12時30分～13時 王塚神楽舞伝承保存会
26日
11時～11時30分 藤の和芸能保存会
13時40分～14時10分 藤の和芸能保存会



ふくしま
実現可能
な未来

入場
無料

受け継ぎ、
つなぐ、
地域のたから

ふるさとの祭り
in なみえ
2025

2025年(令和7年)

10/25 土
10/26 日

10:00～15:30

※終了時刻は変更になる場合があります。

会場／道の駅なみえ
交流広場

※悪天候、地震等の災害が発生した場合又は発生が予想される場合は、主催者の判断によりスケジュールを変更したり、イベントを中止する場合があります。

お問い合わせ

ふるさとの祭り実行委員会(福島県文化振興課内) TEL.024-521-7154 FAX.024-521-5677
https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/11055a/furusato2025.html メール bunka@pref.fukushima.lg.jp
当日のお問い合わせ〈運営事務局 TEL.080-6052-8639〉



主催 / 福島県、ふるさとの祭り実行委員会

ふるさとの祭り 福島

ステージプログラム

※都合により出演団体及び出演日時が変更になる場合があります。

25

土 10:00~15:00

10:00 オープニングイベント
浪江町太鼓披露

10:30 深野神楽保存会

10:55 馬場民俗芸能保存会

11:25 原瀬諏訪神社太々神楽保存会

11:55 前沢の女宝財踊保存会

12:15 昼休憩

13:15 上三坂やっちき踊り保存会

13:40 王塚神楽舞伝承保存会

14:05 相馬流れ山踊り伝承保存会

14:30 請戸神楽保存会

26

日 10:00~15:30

10:00 岩子神楽保存会

10:25 江名諏訪神社文化伝統保存会

10:55 瀬上太鼓保存会

11:25 請戸芸能保存会

11:55 南津島郷土芸術保存会

12:20 昼休憩

13:00 藤の和芸能保存会

13:30 比曽芸能保存会

13:55 奥州相馬宮仲神楽団

14:25 小宮民俗芸能保存会

14:55 泉神楽保存会

10/25

土 10:00~15:00

※終了時刻は変更になる場合があります。

出演9団体紹介

ふこうのかぐら

深野の神楽

深野神楽保存会

南相馬市



深野地区は信仰深く、結束も強いことから獅子神楽と大蛇舞の二つを継承していて、鎮守の祭りや地区の行事に舞っています。獅子神楽の種目は準備の間に奏する「すが」で始まり、幕舞・幣束舞・鈴舞、それに激しく舞う乱舞の5種です。古くから芸能を大切にしてきた集落だけに、舞も稀なほど確実に受け継がれています。

ばばの「おいとこ」

馬場の「おいとこ」

馬場民俗芸能保存会

南相馬市



獅子神楽には神楽七芸といって様々な余芸が伝えられています。今回はそのひとつ「おいとこ」を披露します。これは千葉県県の九十九里浜の小念仏といわれる念仏踊でうたい踊られた「高砂そうだよ」の改作です。相馬地方には明治から大正にかけて流行しました。どてら姿に一本差しで腰に籠筆を下げます。華やかな着物でユーモラスに踊ります。一時中断しましたが令和4年から新しい体制で活躍しています。

はらせすわじんじやのだいたいかがら

原瀬諏訪神社の太々神楽

原瀬諏訪神社太々神楽保存会

二本松市



幕末までは近郷の神職が持ち芸を演じていましたが、明治になって神社ごとに素人を募り伝授しました。この神楽は安達地方の系統ですが、一部に安積地方の影響も見られます。市立原瀬小学校では、県内でもいち早く、約20年前から保存会の方々から習い受け、学習発表会などで披露し、子どもたちの誇りになっています。今回は鹿島の神と諏訪の神の国譲りと、女神が持つ鏡を猿が欲しがるとユーモラスな「神鏡舞」が披露されます。

かみみさかのやっちきおどり

上三坂のやっちき踊り

上三坂やっちき踊り保存会

いわき市



かつてはいわき市内の各地で若者が踊っていました。ことに盆踊には輪踊そばで踊ったことから、「櫓こわし」ともいわれ、戦後は次々とやめるところがでてきました。しかし、在京の研究者から同じ側の手足を同時に上げるナンパという古い盆踊の姿を残していることを指摘され、昭和53年から市内の施設で多くの団体が参加した催しも行われるようになるなど再興されました。現在継承している団体は、この団体のみであり貴重な踊りです。

そうまながれやまおどり

相馬流れ山踊り

相馬流れ山踊り伝承保存会

南相馬市



国の重要無形民俗文化財の「相馬野馬追」で祭場の雲雀ヶ原で披露される踊り唄で、相馬の国歌ともいわれています。もとは田植えにうたわれた仕事唄で、明治になって野馬追に取り入れられました。歌は前半と後半を繰り返す、古い民謡の姿を留めています。踊りは4種で、すべて馬に関する振りです。相馬中村藩の九曜の紋をつけた衣装と陣笠で、ひときわきびぎと格調高く踊ります。

まえさわのおんなほうさいおどり

前沢の女宝財踊

前沢の女宝財踊保存会

双葉町



南北朝の乱の際に、霊山から北畠氏の家臣が旅芸人に変装して落ち延びた姿を後に踊りにしたものといわれ、南相馬市鹿島区の江重日吉神社の浜下りに行われます。これを昭和2年に県立相馬農業高校が神社の許しを得て踊り手を3人増やすなどで運動会で披露し大評判となったのをきっかけに、各地に広まり踊られるようになりました。踊り手がすべて女性であることから「女宝財踊」といわれています。

おうつかんじやのかぐら

王塚神社の神楽

王塚神楽舞伝承保存会

富岡町



王塚神社には子どもの健やかな成長を祈って神社から刀か長刀を守りとして借りる珍しい信仰があります。祭日や元日には無病息災と家内安全を祈って神楽をし、正月2日には氏子の各家を回っています。種目は四方固め・幣舞・鈴舞と続き、乱舞で納めます。神楽はゆったりとして風格がある舞です。東日本大震災で社殿が損壊し、避難を強いられ苦難が続きましたが、神社の再建をきっかけに、令和2年に10年ぶりに神楽も再開しました。

うけどのかぐら

請戸の神楽

請戸神楽保存会

浪江町



浪江町請戸の苜野(くさの)神社の「安波祭」で舞われます。この祭りは海上安全と豊漁を祈る祭りで、漁師の厚い信仰に支えられてきただけに、神楽の伝承も確実です。舞は初めに「四方固め」、次に幣束を持つ「幣束舞」と、鈴と幣束を持つ「鈴舞」が続き、さらに「あばれ」で、激しく舞い、浜では波打ち際に行って海を清めます。大震災での津波で集落は流失し、一時中断しましたが、3年後に再興されました。

オープニングステージ

なみえまちたいこ

浪江町太鼓披露

2023年10月に立ち上がった浪江町の太鼓チーム

「浪江町を代表する新たな観光コンテンツを作る」ことを目的に結成しました。メンバーは震災前から浪江町に住んでいた方、震災後に住み始めた方、子ども・大人合わせて20名程度で活動しています。2024年2月に「富岡太鼓まつり」にてデビュー、その後も活躍の場を広げています。



10/26

日 10:00~15:30

※終了時刻は変更になる場合があります。

出演10団体紹介

いわのこのかぐら

岩子の神楽

岩子神楽保存会

相馬市



相馬市内には各地に獅子神楽が伝えられていて、まとめて「相馬宇多郷の神楽」として県の文化財に指定されています。中でも岩子には300年前の享保2年(1717)に、雨乞いに神楽を行ったという記録があり、これは神楽に関する県内最古の文書です。岩子神楽舞については、初めに獅子をかぶり幣束と鈴を持ち四方を蹴り清める「四方固め」、神楽を勢い良く舞い邪気を蹴り清める「散し舞」とで、散し舞は3幕構成で演じております。

せのうえのまつりばやし

瀬上の祭り囃子

瀬上太鼓保存会

福島市



県内の祭り囃子の多くは、大太鼓は柳の枝の長擡で打つことが多いのですが、県北地区では桐の太鼓で、曲打ちといって、まるで踊るようにして打ちます。それだけに囃子の迫力だけでなく、見栄えもします。この奏法を古くから伝えていたのは、県内では伊達市梁川町です。至近では宮城県丸森町が盛んでしたので、この影響と思われます。福島市瀬上は奥州道中の宿場として栄えたので、囃子もひときわ美しく磨き上げられました。

みなみつしまのたうえおどり

南津島の田植踊

南津島郷土芸術保存会

浪江町



浪江町津島地区には田植踊は4つの集落に伝えられ、まとめて県の重要無形民俗文化財に指定されています。種目は「種蒔き」から始まり、稲作の順に6種あります。踊り手はうたい手の「種下ろし」のほか鉄頭・小太鼓・ささら・早乙女などで輪になって優雅に踊ります。早乙女は田植えには着るはずもない豪華な留袖を着ます。これは豊作への強い願いの表れです。令和4年から東北学院大学の学生が継承に協力しています。

ひそのさんびきししまい

比曽の三匹獅子舞

比曽芸能保存会

飯館村



比曽の三匹獅子舞は「ささらすり」1人と獅子3人によります。「ささら」は約2㍎の丸竹の上部に120本の造花を差したもので、千穂竹ともいい、豊作祈願の採物(とりもの)で、阿武隈山地の北部だけで用いられます。種目は6種で「雌獅子舞」はしっかりした筋立てで舞っており、歌も歌っているなど伝承も確かです。震災後間もなく公開しましたが、避難者が多いことから継承が難しくなり、令和6年から子どもたちも受け継いでいます。

こみやのたうえおどり

小宮の田植踊

小宮民俗芸能保存会

飯館村



飯館村は標高5~600㍎の高冷地で、たびたび凶作に見舞われました。そのために豊作を祈る田植踊が、かつては18か所で行われていて、小宮を含む13か所が県指定の文化財です。なかでも小宮地区のものは華やかで、輪になって踊るのが特徴です。原発事故により全村が避難しましたが、平成26年から再興し、鎮守の稻荷神社の遷宮や村の文化祭などに参加して、その灯を絶やさずに継承に努めています。

えなすわじんじやのさんびきししまい

江名諏訪神社の三匹獅子舞

江名諏訪神社文化伝統保存会

いわき市



江名の鎮守諏訪神社の夏まつりは「獅子祭り」ともいわれ、獅子舞を奉納しています。舞は約250年前に市内の中平塚から習い受けたと記された文書が残されています。大正時代に休止し、しばらくは平下高久の方々の協力を得ていましたが、大震災を機に継承の機運が高まり、小学校の協力もあって、平成25年に江名の児童が受け継ぎました。種目は「おぼこ舞」「1匹ちらし」「3匹ちらし」「おかざき」などです。熱意はまれに見るほど高く、週2回練習に励んでいます。

うけどのたうえおどり

請戸の田植踊

請戸芸能保存会

浪江町



平安時代に編まれた延喜式に記載されている苜野(くさの)神社の「安波祭」といわれる海上安全と豊漁・豊作を祈る祭りに、神楽とともに奉納されます。その昔、凶作の際に村人たちが神社に籠って祈っていると、踊り手があらわれたという伝説があります。県内の田植踊の中では芸能化が進み、美しく研ぎ上げられたものです。大震災の5か月後にいち早く再興されて全国に知られるようになりました。

やないづのだいかぐら

柳津の大神楽

藤の和芸能保存会

柳津町



旧二本松藩の御用神楽師の流れをくみ、二本松神楽ともいわれています。大正時代に師匠の三左衛門が只見町桑取の山内家の婿養子になり、山内家の家紋から「丸一神楽」ともいわれています。三左衛門が亡くなった後は弟子によって受け継がれ、これが藤の和芸能保存会で、今なお県内各地を巡っています。余芸の神楽七芸には県内ではただひとつお椀や撥、傘と種などを用的曲芸も演じます。県指定の文化財です。

みやなかのかぐら

宮仲の神楽

奥州相馬宮仲神楽団

飯館村



飯館村には獅子神楽や田植踊など、実に多くの芸能が伝えられています。獅子神楽は7地区で行われており、今回は飯館地区の宮仲の神楽をご覧いただけます。飯館村は高冷地で天候も不順なことから作神の大雷神社が祀られていて、干ばつでも大雨でもことあるごとに神楽を奉納して豊作を祈りました。種目はここも四方固め・幣舞・鈴舞・乱舞の4種で、優雅に舞うことから「女神楽」ともいわれています。

いずみのかぐら

泉の神楽

泉神楽保存会

南相馬市



獅子遣いは伝授してくれた団体の許しを受けて羽織姿です。舞庭の入口で「一人かくや」を、神前に進む間に「通り」を奏します。種目は四方を巡る「四方固め」、剣を持つ「剣舞」、剣と鈴を持つ「鈴舞」、激しく舞う「散らし」です。伝統をしっかり守り伝えている神楽です。